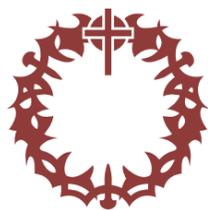




建学の精神

桜美林学園は、キリスト教精神に基づいて、教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基礎とし、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、深く専門学芸の研究と教育を行なうことを目的としています。

創立者の清水安三は「キリスト教主義と語学の二つをよく体得した人材を、能うだけ多数教育せんとするのが、本学の建学の趣旨である」としています。その理由として「日本国民が軍備を用いずに祖国を護ろうと思うならば、少なくとも周囲の各国民の感情を害してはならない。また、周囲の各国民との間に意思の疎通を図るべく努めるために、周囲の国々の言語を教え、語学の達人となり、己を愛する如く隣人をも愛せよ、と教えるキリスト教を、みっちり教えるべきである」と言っています。



桜美林学園 校章・マーク
スリー・ネイルズ・クラウン (Three-nails crown)
で「苦難を通して栄光に入る」ことを象徴しています。

学校法人 桜美林学園

〒194-0294 東京都町田市常盤町3758

TEL : 042-797-2661 FAX : 042-797-1887



創立

桜美林学園の創立者 清水安三は、滋賀県の湖西地方 高島郡新旭町の出身で、中学時代にヴォーリス合名会社(のちの近江兄弟社)の創立者の一人で建築家であり実業家でもあったウィリアム・メレル・ヴォーリズの感化を受けました。ヴォーリズは信徒の立場で、YMCA 活動や〈近江ミッション〉の設立などを行ない、熱心にプロテスタントの伝道に従事した人物で、当時、清水の郷里近くにある県立八幡商業学校の教師のかたわら、バイブルクラスを行なっていました。青年たちは「ボリッさん」と呼んで、ヴォーリズに親しみました。

清水は、京都・平安教会で行なわれた同志社大学総長の牧野虎次牧師の話に感銘を受けて、中国伝道を志しました。一年間歩兵隊志願兵として入隊を経験し、苦学生として学び、1916年(大正5)同志社大学神学部を卒業。翌1917年(大正6)に日本人初の中国宣教師として大連を経由し奉天に渡り、伝道活動を開始しました。のちに徳富蘇峰が書いた『支那漫遊記』(民友社 1948)にも共感を寄せています。

最初の妻 美穂と共に、災童収容所からはじめ、貧困から売られたり売春せざるを得ない女子の自立のために、手工芸を教え、教育を受ける崇貞平民工読学校を設立しました。大変な苦労を重ねて学校を継続させますが、美穂は病に罹り38歳の若さで天に召されてしまいます。

再婚した小泉郁子の協力も得て、1936年(昭和11)崇貞女子中学として正式に発足、1939年(昭和14)には崇貞学園と改称します。しかし敗戦とともに学校は中国政府が接収、すべてを失い、失意の内に帰国を余儀なくされました。

中国から引き上げてきた清水夫妻は、「為ん方尽くれども、希望を失わず」という聖書の言葉に励まされ、また牧師で社会活動家の賀川豊彦との出会いにより、現在の町田の地に「キリスト教主義に基づいた国際的な教養人の育成」を建学の精神とする桜美林学園を創立しました。

若きころ、オベリン大学に留学した清水は、人びとの教化と生活の向上に尽くしたオベリンの生涯に建学の趣旨を重ね合わせ、さらに、学園が染井吉野、八重桜の林に囲まれているところから、「桜美林」と名づけました。

創立の背景と歴史

清水安三は、日本人初の中国宣教師として海を渡りました。2年後に、華北5省が早魃で大飢饉に見舞われたため、救済事業を企画して朝陽門外に災童収容所を設置。妻 美穂とともに農村各地を荷馬車で回り、799名の子供を親から預かり世話をします。農村の収穫が回復した翌年、親元に帰し、その功勞で受勲しています。災童収容所解散後、29歳のとき、この働きの労賃と綿衣服の制作余剰金を資金として、1921年(大正10)崇貞平民工読学校を朝陽門外に開校しました。朝陽門外は北京防衛の要でしたが、当時、中国の南北を結ぶ大運河がその役割を終え、輸送業務従事者が大量失業。さらに清朝が倒れて満州族や蒙古族の八旗兵が失職、没落し、貧民街になっていました。幼い娘が売られ、娘や人妻が売春するなど、その悲惨な有様を見た清水夫妻は、女子に自立のための教育を授けることで安売りされる貞操を守りたい、と「崇貞」と命名しました。そのような貧民の娘を教育する学校でしたから、生徒は授業料なし、学校で手工(刺繍)を習い、製品をつくり、その工賃で家計を助ける、という文字通り働き学ぶ「工読」学校でした。刺繍による手仕事の確立は成功を収め、校舎も4棟建つに至りました。

1923年(大正12)、北京を訪れた倉敷紡績社長 大原孫三郎のガイドを務めた縁で、清水は2年間のアメリカ留学の費用を供与されます。1924年(大正13)大阪教会で握手礼を受け、美穂を伴ってアメリカに渡り、オベリン大学に学びました(Oberlin College オバーリン大学ともいわれる)。アメリカ・オハイオ州オバーリンの町と大学は、アルザス出身の長老派教会牧師で社会活動家のヨハン・フリードリヒ・オーベルリン(Jean Frdric Oberlin)に因んで命名されました。

1833年(天保4)設立されたオベリン大学はリベラル・アーツ・カレッジで、設立年に女性の学生を、2年後には有色人種の学生を受け入れたことでも知られています。

崇貞平民工読学校を継続するために、帰国して募金活動を行ないますが思うように資金が集まらず、一時は同志社大学の講師となります。しかし解雇されたのちは近江兄弟社北京駐在員になり、再び北京へ戻りました。1933年(昭和8)共に働いてきた美穂が病に倒れ、天に召されます。その後も中国での働きに専心し、再婚した郁子も共に献身しますが、敗戦ですべてを失い帰国を余儀なくされました。

しかし、日本の再建を農村の教化から始めるという志のもと、思いがけぬ早さでキリスト教教育の学校を創設するに至ったのは、戦火で焼かれた東京で、泊まる宿もなく心細い思いで歩いていたときに、神田錦町のYMCAの前で偶然行き会った賀川豊彦から寄せられた情報にありました。神奈川県相模原市淵野辺の陸軍技手の寄宿舎跡を借りることができたのです。廃屋同然の校舎を直すために、著書売りさばきつつ講演する募金行脚を2年間続けました。国内はもとよりハワイ、アメリカにも渡り、ブラジルでは小野謙蔵、弓場繁両牧師の協力で十分な収益を上げることができました。

桜美林学園の開校は、清水にとって崇貞平民工読学校の延長でした。人々の教化と生活の向上に尽くしたオベリンの生涯にならう活動が認められ、1968年(昭和43)77歳のときにオベリン大学より名誉博士号を授けられました。



学園創設者・初代学長 清水安三 (1891~1988年)
敗戦ですべてを失ったのちに0から出発した経験は、
著書『石ころの生涯』にも書かれています